

個人投資家向け説明会

2024 年 11 月

日産車体株式会社

会社紹介

日産車体は、ここ神奈川県平塚市に本社、
湘南工場、テクノセンターがあり秦野市には秦野事業所、
そして福岡県には日産車体九州があります。
それでは、この4つの拠点の特徴をご紹介します。

本社、湘南工場ではNV200バネット、
小型トラックのピックアップなどを生産。

テクノセンターでは新型車の開発や試作モデルの制作。
秦野事業所にはボディパーツを作るプレス工場と、
テストコースをはじめとする実験設備。

そして、日産車体九州では、
ミニバン エルグランドや輸出用のパトロールなどを生産。

日産車体で生産されたクルマは、
日本国内はもちろん、海外でも高い評価をいただいています。

日産車体で生産されたクルマは、国内に出荷されるだけでなく、
世界各国へも輸出されています。
高品質なクルマを、世界中のお客様へ。

2024年度第2四半期の内容

皆さま、こんにちは。

日産車体株式会社、代表取締役社長の富山隆です。

ただいまより、2025年3月期 第2四半期決算について説明致します。

2024年度、第2四半期の売上台数は、新型コロナの影響から持ち直した23年度に対し減少し、6万4千台となりました。

車種別の売上台数を見ると、ご覧のようになります。売上台数は、今年4月に生産を開始した北米向け「新型インフィニティQX80」が増加したものの、主に「AD」や「NV200バネット」等の商用車が減少した結果、前年同期と比べ11.4%減少の63,557台となりました。

次に、売上高についてです。売上高は、売上台数は減少したものの、前型車に比べ売上価格の高い「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の増加等により、前年同期の1,455億円に対し、12億円増加の1,468億円となりました。

次に損益面について説明します。

損益面では、営業損益は商用車を中心とした売上台数の減少による影響や、最先端の性能を有する「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の連続した立ち上げに対し、生産効率が十分に上がらないことにより売上台数が需要に追いつかず、また人員や生産時間を増やしたため追加の生産コストを要したこと等により前年同期の4.8億円に対し、27億円悪化の22億円の損失、経常損益は前年同期の6.9億円に対し、26億円悪化の19億円の損失、親会社株主に帰属する中間純損益は前年同期の4.1億円に対し、18億円悪化の14億円の損失となり、今年度上期は前年に対し増収減益となりました。

これらを踏まえ、通期の予想について説明します。

当社グループの主たる事業セグメントである自動車関連事業において、前回予想に対して売上高は、新型車の売上価格が前回予想策定時点よりも高額になったため増加する見込みであります。営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、最先端の性能を有する「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の連続した立ち上げに対し、上期は生産効率が十分に上がらないことにより売上台数が需要に追いつかず、またその対応で人員や生産時間を増やすなど、前回予想以上に生産コストを要しました。下期は需要に応えるため生産効率を改善して売上台数を増加させることで、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は上期に対して大幅に改善するものの、通期としては前回予想を下回る見込みであります。

売上高は、当初予想3,287億円に対し、通期見通しで3,513億円、営業利益は、当初予想87億円に対し44億円、経常利益は、当初予想90億円に対し、49億円、そして、当期純利益は、当初予想54億円に対し、24億円となる見込みとなりました。

以上が2025年3月期 第2四半期決算についての説明になります。

お忙しい中、ご視聴いただき、誠にありがとうございました。